

### 3 今後の取組について

#### 【札幌工業】

##### [信濃委員]

- ・岩見沢農業高校とのコラボレーションに期待をしている。
- ・生産者にとって、どのようなスマート農業がよいのかを、今一度精査してもらいたい。

##### [小島委員]

- ・岩見沢農業高校との意見交換については、Zoom 等を活用し、今後も節目節目で行うことが大切と考える。
- ・今後の無加温ハウスの実用化に向けた検証では、技術の確立だけではなく、経営や起業という視点も含めて進めてほしい。是非、北海道農業の発展に資するビジネスモデルを提案してほしい。

##### [岡部委員]

- ・コロナ禍の影響で実施できなかった岩見沢農業高校の施設での実証試験など、コラボレーションチャレンジにおいて学んだ知識やスキルを、実際の農場において、どの程度、どのように活用できるのかを考えさせることが、今後の課題となる。
- ・本事業での取組が、生徒の農業に対する関心の向上や、工業と農業とのつながりの認識につながっているのかについて、アンケート等で確認することが望まれる。

##### [百瀬委員]

- ・技術を更に高めて、「システムパッケージ商品」として完成させることを期待する。

##### [林委員]

- ・セルフブランディング講義については、次年度以降も継続した取組が重要である。

##### [飯田委員]

- ・本研究の終了後においても継続して取り組む意気込みは、大変評価できる。

##### [竹中委員]

- ・研究指定事業の終了後、農業・工業のコラボレーションチャレンジは、終息させることになるのか。

##### [和泉委員]

- ・スマートハウスや地熱活用など、テーマを明確に設定した上で検討しており、今後の研究実践や実証実験の取組を行う上で、進むべき方針が決定している点も評価したい。

##### [鷲頭委員]

- ・高校と道総研との技術連携は初めてとのことだが、若者が研究開発やものづくりに関心をもつきっかけとなる取組であり、今後も道総研等の協力を得ながら、こうした研究を継続してほしい。

## 【岩見沢農業】

### [信濃委員]

- ・農業科学科では、今年度の試験結果に基づいて次年度の試験計画を絞ってはどうか。2つのハウスシステムで周年栽培を行うことにより、どのような成果が得られるか。
- ・農業土木工学科では、エネルギーミックスの組合せの効率化を、どのように進めるのか。その最適化を事前に丁寧に検証してもらいたい。

### [小島委員]

- ・次年度、いよいよ再生エネルギーを活用したスマート農業のシステムを、岩見沢農業高校に導入することになる。札幌工業高校と密に連携を取り、成果を確認しながら進めてほしい。特に地中熱と発酵熱の組合せによる加温には、大いに期待している。
- ・地域への普及に力を入れていただきたい。成果の発信の強化や、地域の方々への施設見学会を企画するなど、PR活動も計画的・積極的に進めてほしい。

### [岡部委員]

- ・コロナ禍の影響で実施できなかった、岩見沢農業高校の施設を用いた札幌工業高校との実証試験など、両校の取組の成果を結び付けた実証実験の実施が、今後の課題となる。
- ・大学等への進学に対する関心の向上、工業に対する関心の高さは、注目すべき生徒の変化であると考え。報告書にも記載されているように、高大接続をより意識した取組が必要になるものと推察される。

### [百瀬委員]

- ・今後も継続して実証実験に取り組み、北海道農業の発展につなげてほしい。

### [林委員]

- ・農業現場での普及に向けては、「経済性の検討（費用対効果の検証）」の視点が重要になる。

### [飯田委員]

- ・研究主題が「農業所得向上」なので、コスト試算が重要であり、今後の取組内容（経済性の検討）は妥当である。

### [竹中委員]

- ・研究結果の発表体験は、振り返りとしてとても役に立った。
- ・環境制御ハウスの実証実験の実施に当たっては、対照区(慣行)の設置条件(慣行の意味：試験区と具体的に何が異なるか)に留意してほしい。

### [和泉委員]

- ・現在、トレンドとなっている環境への配慮、SDGs・みどりの食料戦略なども視野に入れ、これからも自分達の生活と向き合った実用性のある学習を進めても楽しいものとなる。

### [鷲頭委員]

- ・農家の所得向上やゼロエミッション農業の推進は、本道農業の担い手確保につながる重要な取組であり、本事業の成果を生かして、今後もこうした研究を継続してほしい。